外ヶ浜町

5年後、10年後の上小国の未来を地域住民が守り受け継ぐ

上小国いきいき地域づくり検討会／小林 忠幸さん

2018年に「青森県型地域共生社会」のモデル地区として取り組みを開始し、おすそわけ交流サロンやいきいき百歳体操など地域住民が交流できる事業や、しめ縄作り・お山参詣など、神社行事を主体とした活動を実施。大学生との交流事業によって上小国地区の関係人口を増やしている。

今ある資源をどう活かすか、それが大事！

今ある資源を活かした地域づくりをめざし、検討会を結成

外ヶ浜町の上小国地区は、米づくりをはじめとする農業が盛んな地域です。上小国地区で農業と地域活動をしている小林さんは、2018年に発足した上小国いきいき地域づくり検討会の代表を務めています。「この検討会は、上小国地区の資源を活かしながらより暮らしやすい地域づくりをするために住民主体で動いていく組織です。高齢化がすすむ上小国地区では農業を個人で行わずに農事組合法人が地域一帯の農業を取りまとめていることもあり、農業以外の地域活動も地域みんなで助け合っていこうということで、できることから取り組んでいます」。検討会のメンバーは現在16名で、自治会や婦人会、子ども会、消防団、農事組合法人上小国ファームなど、普段から地域づくりに貢献しているメンバーが所属しています。

2019年に策定した「上小国いきいき地域づくりプラン」をもとに、おすそわけ交流サロン、いきいき百歳体操、お山参詣DE防災訓練事業、大学生との交流事業、しめ縄づくり体験および販売事業など、地域住民全世代が参加できる事業に取り組んでいます。

地域住民の「あれやってみよう」を形にしながら事業を展開

各活動は、上小国会館（自治会館）を拠点に実施しています。検討会で最初に取り組んだ「いきいき百歳体操」は、地域住民が週に一度会館に集まり、健康増進、介護予防のための体操を行っています。また「おすそわけ交流サロン」は冬場の農閑期に月1回程度、各家庭で余った食材を持ち寄ったり、料理を振舞って交流しています。「百歳体操の参加者は女性が多く、毎回10～15名程度。ここに来ることで地域住民がおしゃべりしたり交流できる、それ自体に意義があります。30～40名が参加するサロンでは、畑で採れたけれど食べきれない野菜を交換したり、けの汁や漬け物を持参する人もいます。サロンで集まって話しているうちに、次のサロンではこうしようと、ああしようと案が出ることも。雛祭りの七段飾りを飾ったり、まゆ玉を作って飾ったりと季節の行事にあわせた内容は、サロンの延長上で生まれました」。地区の子どもたちにも積極的に参加を呼びかけることで、全世代が交流できる場となっています。

また、上小国会館では建物の一角を改築して、食品製造ができる作業場を併設。婦人会が中心となり、米粉や切り餅、世界遺産登録となった大平山元遺跡のPR商品「むーもんせんべい」などの製造・販売を行い、利益の一部を検討会の活動資金としています。

いきいき百歳体操。集まる方は女性が多い。

地域活動によって神社行事が復活できたことが一番うれしい

さまざまな活動を続けてきて「大学生との交流事業では、田植え体験で大学生と関わったことで住民の顔つきが変わったのが印象的だった。若い人がいるというだけで、住民も活気づくと感じた」と語る小林さん。世代を超えて活動することが、住民の生きがいややりがい、楽しみにもつながっています。

上小国地区で毎年8月に開催している「お山参詣」は、地域住民で地区を一回りしてから山登りして祠を参詣する行事。

おすそわけ交流サロンで行ったまゆ玉づくり。

1995年から続くお山参詣は、地区の行事として根付いている。

むーもんせんべいとパワーボールで大平山元遺跡をPR!

七段飾りのひな人形を初めて見た子どももいる。

20年以上続く地域の行事で、多い年では80人以上の参加者があります。一度開催が途絶えたこともありましたが、復活できたことで参加者も「やってよかった」と満足度が高かったそうです。また、地区の有志で大しめ縄づくりにも挑戦。スゲや藁を使い、試行錯誤しながら作ったという大しめ縄は、年末に神社の大鳥居に奉納されました。上小国地区は昔から神社行事を大切にしてきた土地。検討会ではこれらの年中行事を大切にして、伝統を若い世代につないでいきたい考えです。

上小国に関わる若年層を増やし、地域に活力を

小林さんは現状について「まだまだ地域全体を巻き込んでいるとは言えない」と話します。「地域活動に参加していない人もいて、二分化している。その人たちへのアプローチが今後の課題。また、今の活動の主体は60～70代の団塊の世代で、その下の世代がいない。世代交代ができない状況。上小国地区への移住が難しくても、遊びに来る若者や農業体験できる場所を作るなど、試行錯誤して関係人口を増やしたい」。

また、上小国地区にあるビオトープを整備してキャンプや釣りなど自然を楽しめる憩いの場所をめざしたり、山で獲れる山菜や果物をより身近に楽しんでもらえる場づくりなど、挑戦したいことがたくさんあるといいます。「一朝一夕にはできないが、上小国に今ある資源をいかに活用していくか。できることを住民と模索していきたい」。

しめ縄づくりを新たに企画。

大学生との交流事業で田植えに挑戦。

団体データ

上小国いきいき地域づくり検討会

- 設立　2018年2月
- メンバー　16名
- 拠点　外ヶ浜町上小国地区
- 活動エリア　外ヶ浜町上小国地区
- 住所　〒030-1305
  東津軽郡外ヶ浜町字蟹田小国品吉50
  上小国会館

連携先機関

- 上小国自治会
- 農事組合法人上小国ファーム
- 上小国集落協定
- 上小国婦人会
- 外ヶ浜町消防団蟹田第10分団
- 一般社団法人tsumugu
- 外ヶ浜町役場

団体のあゆみ

- 2018
  - 上小国いきいき地域づくり検討会 発足
  - 「上小国いきいき地域づくりプラン」策定
- 2019
  - プランを元に10事業を実施
- 2020
  - 大学生との交流事業で田植えとお山参詣を実施

ここがPOINT!

住民が楽しんでできる作業で生きがい・働きがいを創出

2020年から始めたしめ縄づくり。「各家庭で飾るしめ縄を、昔は手作りしていたよね」という会話から、しめ縄リースを作ったところ、思いのほか上手にできたことで販売用にも展開しています。「むーもんせんべい」にも同じことが言えますが、上小国地区にある資源を活用し、付加価値をつけて販売することで、作業に関わった住民のやりがいにつながっています。